

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【和土小】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	(1)資料を読み解き、習得した知識・技能を活用しながら課題を解決する資質・能力 (2)主体的・対話的に学ぼうとする資質・能力	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)読書タイムやNIE実践指定校としての新聞活用、学校図書館を利用して、調べたり考えたりしたことを報告する言語活動を行う。【学期に1回以上】 (2)児童同士が意見の伝え合いをしたり、自分の考えを説明したりする授業の実施。【各単元で1回以上】ICTの活用や具体物の操作、学習プリント等を通しての反復学習の時間を確保できる見直しをもった単元計画の立案【毎単元】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	国語では「書くこと」「読むこと」、算数では「思考・判断・表現」に関して全国の正答率を下回り、課題が見られた。特に重点的に指導する資質・能力に関連する国語「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。」と「文章を読んで、理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題に課題がみられた。また算数でも「示された情報を基に、数量の関係を基に、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる」問題に課題がみられた。主体的・対話的に学ぼうとする資質・能力と関連する児童質問「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」について、肯定的な回答が9割以上であった。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	複数の情報を利用して自分の考えを書くことに引き続き課題が見られる。 ・低中学年で学習した内容の正答率が低いため、定着率も低いと見られる。 ・資料を読み取り、どんな解法で解くかが理解できないため、学習と生活が結びつくような問題の取り組み方が必要であると考えられる。 ・多くの児童が主体的に学習しようとする態度がみられる。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	学力向上策(1)(2)は計画通りにできている。新聞活用については、単元計画を見直したり、校内での取組方を検討したりしていく。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	(変更なし)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所